



国際ロータリー第2600地区  
上田ロータリークラブ  
(創立1959年11月12日)

# WEEKLY REPORT

2021-2022年度 国際ロータリーテーマ  
**奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために**

R.I.会長 シェカール・メータ  
国際ロータリー第2600地区 ガバナー 桑澤 一郎



**Rotary**  
Club of Ueda



2021-22年度  
上田ロータリークラブ

- 会長 米津 仁志
- 副会長 金子 良夫・湯田 勝己
- 幹事 柳澤 雄次郎
- 会報委員長 田邊 利江子

## 第2844回例会 (令和3年10月4日) 《オンライン例会》



ホームページQR

### [慶祝]

#### お誕生月 3名

齊藤 達也さん  
三井 英和さん  
土屋 陽一さん



#### 結婚記念月 9名

飯島 幸宏さん  
土屋 陽一さん  
石森 周一さん  
花岡 正人さん  
河田 純さん  
丸山 正一さん  
滋野 真さん  
柳澤日出男さん  
関 勇治さん



#### 事業創立記念月 6名

小幡 晃大さん  
宮下 潤一さん  
織 英子さん  
矢島 康夫さん  
林 秀樹さん  
柳澤雄次郎さん



#### 皆出席 2名

伊藤 典夫さん(12年)  
関 宇陽さん(5年)



### [会長挨拶]

米津仁志 会長

みなさん、こんにちは。爽やかな秋晴れが続いております。

本日は戸倉上山田RCより、竹森松雄さまと米山奨学生のムンフバト・アリウンボルドさんをお迎えしております。



10月から全国の緊急事態宣言が解除されました。まだ油断はできませんが、もう、うちにこもっている時期ではないと思っています。気をつけながらも行動範囲を広げてまいりたいと思います。

今日はとうし(10-4)の日であり、てんし(10-4)の日だそうです。そして、新しい内閣総理大臣が生まれる日です。国難を乗り越えるたくましい総理大臣であってほしいと願っています。

今回もオンラインでの開催になってしまいました。デジタル化推進委員会の皆さんやハビタットさんの助力のおかげで、当クラブのオンライン開催もだんだんと慣れてきております。

さて、先週の例会では「顧客の創造のために企業はマーケティングとイノベーションの二つの機能をもつ」というドラッカーの言葉を紹介しました。マーケティングとイノベーションとはよく聞く割に、大変分かりづらい概念です。

今日はドラッカーの「マーケティング」についてご紹介します。

“これに対し真のマーケティングは、シアーズが顧客の人口構造、顧客の現実、顧客のニーズ、顧客の価値から

スタートしたように、顧客からスタートする。「われわれは何を売りたいか」ではなく、「顧客は何を買いたいか」を考える。「われわれの製品やサービスにできることはこれである」ではなく、「顧客を見つけようとし、価値ありとし、必要としている満足はこれである」という。

実のところ、販売とマーケティングは逆である。同じ意味でないことはもちろん、補い合う部分さえない。

何らかの販売は必要である。しかし、マーケティングの理想は販売を不要にすることである。マーケティングが目指すものは、顧客を理解し、顧客に製品とサービスを合わせ、自ら売れるようにすることである。”

『マネジメント(上)』第6章「企業とは何か」p76より引用

ドラッカーのいうマーケティングとは、自社のお客さまをよく見極め、そのお客さまがどうされたいのか？ どうなりたいのか？ という状態を実現することだ、と言えます。別の言い方をすれば、お客さまの望む状態を実現することがマーケティングの目標であると言ってもいいかもしれません。

もしもお客さまがそのような状態になられたとしたら、営業することも販売することも必要がなく、お客さまは自ら喜んで製品を買ってくださるのです。

このことは、企業だけに限ることはありません。岩崎夏海さんの小説『もしドラ』では高校の野球部が、応援してくれる父母や観客を顧客と定義しました。病院、宗教団体、ロータリークラブでも定義づけすることは出来ます。ドラッカーには『非営利団体の経営』という書籍もあります。

今回は企業のもう一つの機能「イノベーション」の意味について、深めていきたいと思います。

来週の例会はリアルで開催できますことを祈念しております。ありがとうございました。



[ゲスト紹介]

増田幸一 米山奨学会委員長



[ゲスト]

米山奨学生カウンセラー 戸倉上山田RC 竹森松雄様

本日は米山月間ということもありますが、初めてムンフバト・アリウンボルド君が違うクラブで講話をします。声をかける時は、アリ君と呼んでください。上田RCは、上山田RCが誕生した時の親クラブになります。もうじき60年にもなります。昔は色々と交流をしていたので、懐かしいクラブでございます。



[米山奨学生] ムンフバト・アリウンボルドさん

自己紹介、家族の紹介、モンゴルの紹介、日本を留学先に選んだ理由、研究について話をされました。

昨年大学院の1年生になったとき奨学金がなく、コロナ禍でアルバイトも出来なくなり苦労しましたが、今年からロータリー米山奨学会の奨学生になり、皆さんのおかげで心配なく研究を継続でき勉学に励んでいます。皆様の期待に応えられるように頑張りたいと思います。



自己紹介

名前：ムンフバト アリウンボルド (アリ)

生年月日：1997年6月3日 (24歳)

出身：モンゴル・ウランバートル市

趣味：バスケットボール

学歴：2015年 新モンゴル高等学校 卒業  
2020年 信州大学 工学部 卒業  
2022年 信州大学 修士課程 修了

就職先：飯島建設株式会社 (長野市)



家族

2019年9月25日 入籍

兄弟：お姉さん1人 (一橋大学を卒業)

2019年12月16日 娘が生まれた

## モンゴル

- ・人口：およそ300万人
- ・面積：約166万平方キロメートル（およそ日本の4倍）
- ・中国とロシアに挟まれた内陸国



## モンゴルのゲル（移動式テント）



## 厳しすぎるモンゴルの気候



最高気温：+40度前後  
最低気温：-40度前後



## 研究テーマ

低電荷密度陽イオン交換膜の架橋処理による含水量変化および電解質の選択透過性

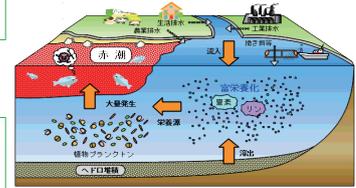
## 研究背景

リン  
閉鎖性水域へ流入することにより、環境問題を引き起こす

除去が必要

・肥料、食品添加物として利用されている  
・50~100年後には枯渇することが懸念されている

回収が必要



赤潮発生プロセス

大学学部には、マブチモーター株式会社からの奨学金を4年間受給

大学院には、今年からロータリー米山記念奨学会の奨学金を受給

MABUCHI MOTOR

Rotary

信州大学  
SHINSHU UNIVERSITY

## 【幹事報告】

柳澤雄次郎 幹事

1. R I the rotarian 10月
2. R I 日本事務局  
財団室ニュース10月号  
日本事務局「在宅勤務延長」のお知らせ  
10月ロータリーレートお知らせ 112円
3. 米山奨学会事務局  
10月事務局勤務体制について
4. ロータリーの友事務所  
新型コロナウイルス感染症に関する友事務所の対応の件お知らせ
5. 地区事務所  
第1回シェカメール・メータR I 会長主催会議ご案内  
地区災害対策義捐金支出規約改正(案)について  
ロータリー財団ポリオ根絶活動、世界ポリオデーへの資料
6. 上田青年会議所  
認承60周年記念式典のお礼状
7. 上田子ども祭り実行委員会  
うえだこどもまつりの後援依頼
8. 豊かな環境づくり上小地域会議  
令和3年度きれいな信州環境美化運動「ごみゼロ運動」  
美化キャンペーン春の実施結果と秋の美化キャンペーン実施について
9. 会報恵送 飯田南R C



**[ニコニコBOX]**

櫻井雅文 委員長

安齋晃徳さん 飯島幸宏さん 伊藤典夫さん 内河利夫さん 小幡晃大さん 上島孝雄さん 河田純さん 北村修一さん 小山宏幸さん 島田甲子雄さん 関宇陽さん 関勇治さん 田中健一さん 田邊利江子さん 花岡正人さん 林秀樹さん 丸山正一さん 三井英和さん 宮下潤一さん 矢島康夫さん 柳澤雄次郎さん 米津仁志さん

本日喜投額 22名 ￥ 78,000  
 累計 ￥454,000

**[ラッキー賞]**

戸倉上山田RC 竹森松雄 様(米津会長から、太郎吉パン)



**[例会の記録]**

司会：関 宇陽委員長

● 慶祝

● ゲスト紹介：増田幸一 米山奨学会委員長

● ゲスト

米山奨学生カウンセラー 戸倉上山田RC 竹森松雄 様  
 米山奨学生 ムンフバト・アリウンボルドさん

● 会長挨拶

● 幹事報告



**[出席報告]**

関 宇陽 委員長



	本日	前々回 (9/13)
会 員 数	58	58
出席ベース	51	50
出席者数	49	45
出席免除(b) ( )内は出席者数	11(4)	11(3)
出席免除(a)	0	0
メイクアップ ( )内は Make up 後		0(45) コロナ禍の為
出席率	100.00	100.00

**[次回例会予定]**

10月18日(月) (デジタル化推進 酒巻弘委員長)

(10月11日発行)

【会報担当】 田邊利江子 委員長

**「ロータリーの友」の歴史 創刊まで**

1952(昭和27)年4月25日、大阪市で開かれた地区大会では、次年度(1952-53年度)から日本が2つの地区に分割されることが決定していました。それまで一つの地区としてまとまっていた日本のロータリアンが2地区に分かれるわけですから、寂しさや期待の入り交じった雰囲気が当時の人たちにはあったようです。そのようなロータリアンの気持ちから、2地区になってからも連絡を緊密にするため、共通の機関誌の創刊が企画されました。

第1回の準備会は大阪で開かれました。大阪ロータリークラブの星野行則氏がガバナーであったこともあり、同クラブの露口四郎氏が幹事役となって開催されました。東京、横浜、京都、大阪、神戸の各クラブ代表者が出席しました。共通の雑誌ということでしたが、東と西では雑誌に対するイメージがかなり違い違っていました。西の星野氏は謄写版刷りの簡単なものでよいから早くという意見でしたし、東では謄写版では手軽すぎて恒久性がない、はじめからある程度きちんとしたものを望むという考えでした。最初の会合では具体案の作成までには至りませんでした。

第2回の準備会が岐阜ロータリークラブの遠藤健三氏の世話で、1952年7月、岐阜・長良川畔の大竹旅館で開かれました。この時は、第1回の準備会よりも具体的になり、議論も沸騰したようです。ここで下記の内容が決定しました。

- ①編集委員は合議制とする。
- ②東京で発行する。
- ③定価50円とするが、広告を取って100円の内容のある雑誌とする。
- ④名称は『ロータリーの友』とする。
- ⑤横書きとする(横書き、縦書きで意見が分かれ、各クラブの意向をうかがうため一般投票を行ったところ、2対1の割合で横書きが採用されることになった)。
- ⑥創刊は1953年1月号とする。



『友』創刊号